

チャネルキャットフィッシュの生息域と捕獲法

チャネルキャットフィッシュは、日本には 1971 年に養殖目的で導入されましたが、生態系や漁業に与える影響が大きいことから、2005 年に「特定外来生物」に指定されました。埼玉県でも 1980 年代から荒川や中川等で確認されていますが、本種の生息状況を調査したところ、荒川水系、利根川水系ともに生息域が拡大しており、内水面漁業への影響が懸念されました。

また、本種を駆除するための簡易で効率的な捕獲方法は、活魚や活エビを餌にした置き針等夜間の釣り漁法であることを明らかにしました。

1 拡大しているチャネルキャットフィッシュの生息域

今回の調査で、新たに利根川、江戸川、福川、入間川、東京葛西用水路、渡良瀬川、川田谷沼(桶川市)で生息を確認。生息域が荒川水系、利根川水系ともに拡大しています。

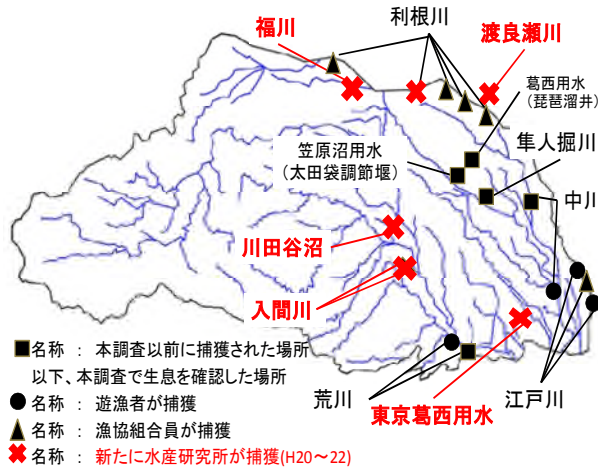


↑ 成魚



← 稚魚

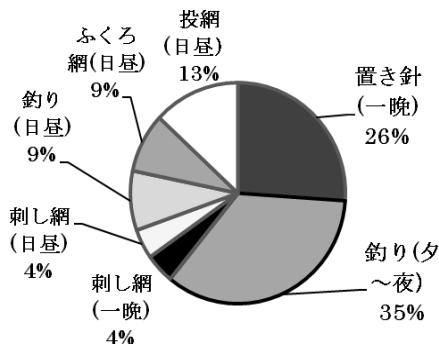
(写真提供：さいたま水族館)



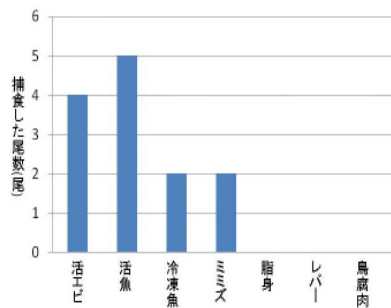
チャネルキャットフィッシュの県内生息状況

2 簡易で効率的なチャネルキャットフィッシュの捕獲方法

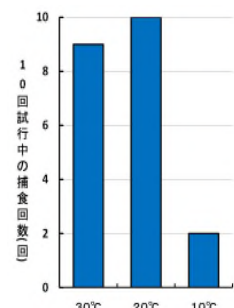
チャネルキャットフィッシュの駆除には、水温 20~30℃で、活魚または活エビを餌にした置き針等夜間の釣り漁法が効果的です。



捕獲は夜間の置き針、釣り漁法が効果的



チャネルキャットフィッシュは活魚活、エビを好む



水温 20°C 以上でよく食べる